

□ 書評 □

エレイン N. マリーブ(著) 林正健二, 他(訳)

人体の構造と機能

坂井建雄

(順天堂大学医学部解剖学教室)

コメディカルの解剖学生理学の教育のための、すばらしい教科書が現れた。いや、そんな生温い誉め言葉では足りない。内容が洗練されて豊富なのか、最先端の知識まで分かりやすく書かれているとか、そんな生やさしいものではない。陳腐な言葉かも知れないが、これは革命的な教科書だ、とでも言うしかない。

これまでのコメディカルの解剖学、生理学の教科書は、概して、医学の解剖学と生理学の教科書から、総論的な内容を削り落とし、各論的な項目だけを抜粋したダイジェスト版に傾きがちだった。解剖学と生理学の専門家が、それぞれの科目の用容をより簡単に分かりやすくしようとしたときに、思わず採ってしまったアプローチである。これではコメディカルが可哀想だと思いながら、彼らにふさわしい教科書のイメージを描ききれないもどかしさを、わたし自身が感じていた。

マリーブ著のこの本は、解剖生理学の教科書の新しい枠組みを与えてくれる。学生は、人体の主要な構造と生命現象とを、その基礎からバランスよく学ぶことができる。人間の生命をを預かる医学およびコメディカルでは、人間の生命という全体を見る視点と、生命

現象の機構を見極める分析する視点の両方が求められるが、その両極が見事に橋渡しされている。分析的な視点の方では、第2章の化学の基礎、そして第3章の細胞と、組織の中の特に細胞生理学あたりが充実している。そして全体的な視点の方では、各章の中に発生・発達・老化の項目が散りばめられている。そして両者をつなぐものとして、ホメオスタシスの仕組みを強調する記述が役立っている。

本書全体を眺めていて、多少不安な点がなくもない。コメディカル教員は、これまで解剖学と生理学に分かれていることが多いようだが、この本では両者を組み合わせて有機的に教えるようになっている。教員自らが、この教科書を使って解剖学と生理学の両方を教える勇気を、果してもてらるだろうか。各論的な記述が抑え気味になっているので、国家試験を目指して勉強する際に、それが足枷にならないだろうか。

しかし好まれないのを承知で、あえて理想論を述べておけば、コメディカル教員にも、この本を使いこなせるほどの力量を身につけて欲しいし、学生の方にも、国家試験だけを目標にするのではなく、医学生物学の基礎から身につけようという志の高さをもってもらいたいものだと思う。

医学の研究も、そしてカリキュラムの大変動のこの時代に、解剖学と生理学の教育も変わらなくっちゃ。自らの存在価値を証明できない教員には、生き抜くのが辛い時代が、これからやってくるのだから。

(A4変 頁488 写真15 原色図236 表29 定価[本体4,800円+税] ㊦450 1997 医学書院・刊)